

第5回 町田市廃棄物最終処分場閉鎖等検討委員会の議事要旨（案）

開催日時：平成20年5月16日(金) 19:00～19:25

開催場所：町田市リサイクル文化センター研修室

参加者：（委員）梶山 正三[委員長]、小川 由一[副委員長]、関口 鉄夫[作業部会長]、
広瀬 立成、渋谷 謙三、小山 宰正、塩路 正太、大垣 雅子、
フォーク エリカ、小林 美知、木野 直美、中川 慶子
（事務局）鈴木 和夫、加藤 貴一、田後 真人、内山 重雄、河西 秀悟、
加藤 保、黒須 桂子、菊池 賢治、鶴長 文憲、斉藤 泰久、
日高 正人、田中 利和、寺田 悟、塚田 豊、原谷 清
（傍聴者）1名（敬称略）

主な議事内容を以下に示す。

（1）今年度調査の先行部分について

事務局より今年度調査の先行部分等について下記の通り報告を行い、了承された。

ボーリング調査は、本年度調査計画に示した箇所にて、5/19(月)より開始する予定である。

処分場周辺井戸調査については、委員長・作業部会長を中心に検討・選定する。

周辺井戸水質データは個人情報に該当するため、市がそのデータを取得するためには、町田市情報公開・個人情報保護運営審議会に諮問する必要がある。市のほうで手続きを進めた上で、調査に着手する。

最終覆土用の土砂の確保が必要となるため、今後、残土等が発生した場合に備えて、最終処分場にて土砂の受入・保管方法を計画する必要がある。土砂の受入・保管に関しては、市の責任で、土壌分析や仮置き計画検討等の適切な措置を実施することとし、委員会には報告事項とする。

また、上記の報告事項について以下のような意見があった。

最終処分場での覆土用土砂の保管に際しては、「町田市土砂等による土地の埋立て等の規制に関する条例」に抵触する恐れがあるため、留意が必要である。

仮置きに際しては、盛土の積上高や勾配、飛散防止対策、土壌中の有害物質の分析が重要となる。また、残土の発生元の確認も重要である。

（2）今後のスケジュール

ボーリング調査は、5/19～6/14を予定している（委員による現場見学は可）

以上

第5回 町田市廃棄物最終処分場閉鎖等検討委員会作業部会の議事要旨（案）

開催日時：平成20年5月16日(金) 19:35～21:30

開催場所：町田市リサイクル文化センター研修室

参加者：（委員）梶山 正三[委員長]、小川 由一[副委員長]、関口 鉄夫[作業部会長]、
広瀬 立成、渋谷 謙三、塩路 正太、大垣 雅子、
小林 美知、木野 直美、中川 慶子
（事務局）鈴木 和夫、加藤 貴一、田後 真人、内山 重雄、河西 秀悟、
加藤 保、黒須 桂子、菊池 賢治、鶴長 文憲、斉藤 泰久、
日高 正人、田中 利和、寺田 悟、塚田 豊、原谷 清
（傍聴者）1名（敬称略）

主な議事内容を以下に示す。

（1）第4回検討委員会の議事要旨の確認について

事務局より第4回検討委員会の議事要旨の内容について説明を行った。修正意見等があれば事務局までご連絡いただく。次回より、議事要旨は委員会・作業部会の開催案内の送付時に同封し、事前にご確認いただくこととする。

また、下記の意見があった。

埋立地には焼却灰等の廃棄物が多く埋まっているが、浸出水中の有害物質濃度は環境基準を下回っており、廃棄物埋立量と比較して、排出している有害物質が少ないと考えられる。

埋立地内の有害物質と浸出水中の有害物質濃度は比例的な関係はあまり見られないと考えられる。

ダイオキシン類や重金属類等の有害物質は、土壌吸着性が高く、環境水中を移動しにくいいため、浸出水中の有害物質濃度が環境基準を下回る範囲であると想定される。

（2）住民報告会の開催報告について

事務局より住民報告会の議事要旨の内容について説明を行った。修正意見等があれば事務局までご連絡いただく。

（3）本年度の調査内容の再確認について

事務局よりこれまでの調査の視点・調査結果、今後の進め方について説明を行い、了承された。今年度調査計画（案）について、以下に主な意見を示す。

本年度調査において、法定の測定項目以外にも、処分場からの影響が懸念される有害物質や今後の廃止に向けたモニタリング計画に必要な項目として、次のような項

目も測定したほうがよい。

- ・ ビスフェノールA等の内分泌攪乱物質の水質濃度(廃プラスチック由来と考えられるビスフェノールAの水質濃度が高くなっている最終処分場の事例がある)
- ・ 埋立ガス中のTVOC(総揮発性有機化合物)濃度

法定項目以外の有害物質について、調査の予算の制約も考慮する必要がある。また、処分場からの影響を図る指標として、どの項目を、どのような判断基準で評価するかの判断が難しい。

本年度調査の測定項目については次回の作業部会で検討する。

今後のモニタリング計画においては、本処分場での自主項目や自主基準を設定したほうがよい。

自主項目・基準の設定に際しては、廃止に向けたモニタリングを見据えて、委員会の中で合理的な理由を検討していく必要がある。

周辺井戸の調査箇所として、処分場の影響を受けていないコントロールデータを測定するために上流側の井戸も対象としたほうがよい。

調査箇所は、委員長、作業部会長、どぜうの会、事務局で協議の上、選定する。

(4) 今後の対策の基本的な考え方について

今後の対策の基本的な考え方として、対策の方針、対策工法、対策の管理・監視方法について事務局より説明を行った。以下に、主な意見を示す。

現地調査に影響のない範囲で土砂の仮置きを検討する必要がある。

最終覆土量を減らすために中央部に集排水路を設ける方法も考えられる。

旧埋立地の最終覆土についても検討したほうがよい。

本年度調査結果を踏まえて今後の対策について検討していく。

(5) 今後のスケジュール

第6回作業部会は2008年6月3日(火)19時から21時に開催する。

以上